

＜広尾病院整備基本構想（案）に対する意見の概要と都の考え方＞

項目	No	意見（原文のまま記載）	都の考え方
病床規模	1	<p>今迄478床だったのが400床になるそうですが是非今迄通りの病床にしてください。</p>	<p>病床規模の設定に当たっては、限られた医療資源を最大限活用し、求められる医療を将来にわたり安定的に提供していくため、患者サービスを維持しながら、より効果的・効率的な体制を構築する観点から、将来の医療需要や近年の広尾病院の稼働状況等に基づく試算・検証を行いました。</p> <p>まず、将来の医療需要による試算では、区西南部における将来の医療需要推計と現在の広尾病院が地域で占める患者シェアから一般病床数を340から350床程度と試算し、地域医療を支援する「地域貢献病床」30床程度や精神科病床30床を加えた結果、400床程度が適正であると判断いたしました。</p> <p>また、近年の稼働状況に基づく検証においても、本基本構想35～36ページに記載のとおり、400床程度の病床を確保することで、新病院に求められる医療ニーズへの対応が可能であると考えております。</p> <p>なお、外部専門家等による検討委員会からの報告においても、同様の意見をいただいております。</p> <p style="text-align: right;">（広尾病院整備基本構想 P32 参照）</p>
	2	<p>新病院の病床数については、可能な限り現在の病床数を確保すべきです。</p> <p>基本構想（案）によれば、改築後の広尾病院の病床数は、おおむね400床程度とされています。地域貢献病床も新たに30床程度確保することになれば、急性期病床は救急病院でありながら、現在の448床から340床程度と100床近くも減らされることになってしまいます。</p> <p>その根拠とされているのは、ここ数年の病床利用実績と、地域医療構想にもとづく将来予測です。しかし、病床利用実績については、医師の大量欠員による病床利用率の低下という、これまでの広尾病院の歴史でもなかったような事態を招いた時期の「実績」であり、改築後の数十年という期間の病床数を決めるにはふさわしくないと考えられます。また、都立病院として、だれでもいつでも受け入れ可能な病床数を確保すべきであり、特に急な入院が必要とされる低所得の患者にとっては個室料などのほとんどない広尾病院は、命とくらしを守るうえで欠かせない役割を持っています。</p> <p>こうした点を考えるならば、病床数は現在地で整備可能な限り、現在の病床数を確保すべきであると考えます。</p>	
島しょ医療の充実・強化	3	<p>大島医療センターについては、建設時から「手術の有無」が問題・懸念になっており、現在は、救急へり最大限の活用でうまく行っておりますが、センターから送られた患者さんや家族から後になって「なんでもっと早く来てくれなかったの！」と言ううわさが蔓延しています。</p> <p>センターも一生懸命努力されていると思いますが、貴院に「モニター室」を設けて、データのやり取りから医師のアドバイスができてふさわしい診断ができる方策を取って戴けませんでしょうか。</p> <p>※光ファイバーに導入は実現したのですが、その有効利用が「未」です。</p>	<p>広尾病院は、島しょ医療の基幹病院として、光ファイバー等を利用した、広尾病院と島しょ地域の医療機関を繋ぐ「画像電送システム」により、X線やCT、内視鏡等の画像を見ながら、専門医師の立場で島の医師へ助言することで診療を支援しており、新病院においても引き続き実施してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（広尾病院整備基本構想 P7 参照）</p>

項目	No	意見（原文のまま記載）	都の考え方
患者家族 宿泊施設	4	大島に住んでいます。医療センターから広尾へとヘリで移送されます。家族はすぐ病人のそばにこの思いで病院へなんとかかけつけますが船便の関係で宿泊しなければなりません。泊まれる場を確保する事が大変です。これからオリンピックを迎えるとますます泊まれるところが少なくなるのでは不安が広がり近所の人たちとの話題も「〇〇さんの家どうしたかしら」との話になります。病人の病状が気になる心配だけど泊まる場所が無いので行けない。こんな思いをしないためにも、今までの5室をもっともっと増やして下さい。	<p>新病院の整備に当たっては、島しょ地域の患者・家族の利便性を維持する観点から、病院敷地内の宿泊施設を確保いたします。</p> <p>なお、具体的な整備内容に関しましては、今回頂戴したご意見も参考にさせていただきながら、今後策定する基本計画において詳細に検討してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（広尾病院整備基本構想 P40 参照）</p>
	5	島しょから入院する時の宿舎を今迄より多く泊まれるよう整備して下さい。	
	6	たたみの部屋でなく（もしたたみであっても）ベットを設置して下さい。	
	7	整備の拡張で、従来の付き添い家族等の宿泊施設の縮小が非常に心配されるようですが、島嶼関連の島しょ会館が対応しきれない場合が多く、「宿泊施設の増」は絶対にお願ひしたいです。	
	8	島嶼入院患者の看護宿泊施設の増設をお願いします。	
	9	<p>島嶼入院患者の付き添い人等の宿泊に必要な施設（部屋数30室程度）を必ず造って下さい。</p> <p>大島在住の者です。妻が医療センターで大腸ガン検査の時、内視鏡で腸壁に穴が開き緊急ヘリ（私も同乗して）広尾病院に運ばれ7時間の手術で救われました。入院期間は15日だったのですが、私は大田区に住んでいる息子の家から毎日病院に通い、それほどの負担がなく済みました。</p> <p>しかし、周りの方の経験では、患者の様子が心配で近くに宿泊したいと思っても、広尾病院の看護師寮5室（現行一使用料も安く感謝されている）への宿泊希望は、ほとんどふさがっていて申し込みが難しいという状況です。</p> <p>竹芝の島嶼会館も混んでいて、他に宿を探すと高い宿泊代がかかります。また、島嶼の場合、陸続きでないため、交通手段は船か飛行機で、本数は少なく、運賃は高く、往復の小回りができません。</p> <p>全体的に生活苦が進んでいます。宿泊代や運賃の負担が重くのしかかっています。</p> <p>これらの現状をふまえ、上記要望をぜひ採用して下さい。</p> <p>なお、伊豆七島全体を考えると、部屋数も30室程度必要だと思います。</p>	

項目	No	意見（原文のまま記載）	都の考え方
施設・設備	10	<p>島内受診から広尾病院受診までの一連の流れをよりスムーズにすることによる、時間短縮を望んでいます。</p> <p>特に島内での受診から緊急ヘリに乗り込むまでに数時間を要することで、場合によっては切迫した事態になりかねません。</p> <p>病院内もせっかく建て替えが進められるので、搬送後スムーズに医師の診断を受けられるよう配置していただきたいと思ひます。（受付、検査、診察など）</p>	<p>島内での救急要請から広尾病院への到着までの一連の対応につきましても、これまでも島の病院や診療所はもとより、福祉保健局、東京消防庁等と緊密に連携することで、患者さんを安全かつ円滑に搬送できるよう対応してまいりました。今後も効率的な搬送に努めてまいります。</p> <p>また、広尾病院内では、従来から患者さんを円滑に受け入れるための体制づくりを行ってまいりましたが、新病院整備に当たっては、今後策定する基本計画において、安全で効率的な動線や施設の配置などを検討してまいります。</p> <p>（広尾病院整備基本構想 P38 参照）</p>
	11	<p>免震構造の採用の決定に賛同します。しかし、本当に免震構造が採用できるのでしょうか。何か犠牲になるはずで、説得力のある構想を策定するには、工期、コスト、工事中の出入りへの影響等デメリットを示す必要があります。当初は、免震構造は不可能と説明されていました。何が変わったのか説明すべきです。</p>	<p>新病院の整備に当たっては、大地震発生時にも医療が継続できるよう、地震の影響を最小限に抑える免震構造を採用することを前提に、整備案の検討を進めてまいりました。</p> <p>検討当初における現地建替え整備の前提としては、狭い敷地のため段階的整備が必要である一方で、工事中の大幅な診療制限が生じるなどの課題を認識しておりました。</p> <p>しかし、この間の地域医療提供体制の大きな動きを踏まえるとともに、病床規模の適正化、整備手法の再検討などによって、当初想定していた現地建替え整備の課題が解消可能となりました。</p> <p>なお、具体的なスケジュールや整備内容等に関しましては、今後策定する基本計画において検討してまいります。</p> <p>（広尾病院整備基本構想 P44 参照）</p>
	12	<p>病室及び電気・機械室を2階以上のフロアに設けることを求めます。</p> <p>広尾は低地です。川に近接しており、浸水リスクがあります。一方、バリアフリーの観点からすると、1階部分のかさ上げは好ましくありません。したがって、病室及び電気・機械室は2階以上のフロアに設けるべきです。</p> <p>電気・機械室に関しては十分な騒音・振動対策を行うことも忘れてはいけません。基本構想の時点から考慮すべき事項です。</p>	<p>広尾病院は、これまでも非常用発電機を地下から屋上へ移設するなど、浸水対策を施してまいりました。</p> <p>新病院の整備に当たりましても、今回頂戴したご意見も参考にさせていただきながら、今後策定する基本計画において具体的な整備内容を検討してまいります。</p> <p>（広尾病院整備基本構想 P6 参照）</p>

項目	No	意見（原文のまま記載）	都の考え方
施設・設備	13	<p>アスベスト調査は終わっているのでしょうか。この時代の建築物にはアスベストが使用されている可能性があります。厳格な封じ込めをお願いします。</p> <p>おそらく、埋蔵文化財が出土するものと思われます。看護学校の仮移転計画には出土した場合を十分想定することを求めます。</p>	<p>アスベストについては、これまでも改修工事等の都度、適切に調査を実施しておりますが、新病院整備に伴う解体工事等に当たりましても同様に調査を行うとともに、関係法規に則り、引き続き適切に対応してまいります。</p> <p>また、埋蔵文化財調査につきましても関係法規に従い、地元行政機関等と協議の上、適切に対応してまいります。</p>
整備スケジュール	14	<p>詳細な工程は示せずとも、大まかなスケジュールは基本構想に盛り込むべきです。建て替え案を選択したことで整備スケジュールがどの程度延び、その間のリスクをどのように低減する考えなのかを明記すべきです。</p>	<p>新病院の整備スケジュールにつきましては、今後基本計画を策定する中で、具体的な建物配置や工事手法等と併せて検討してまいります。医療を取り巻く環境は急速に変化しており、これに伴って地域の医療提供体制も刻々と変化するため、こうした動きを踏まえながら適切に対応してまいります。</p> <p>なお、都立病院の整備実績に基づく標準的な整備スケジュールにつきましては、本基本構想4ページにお示ししておりますので、ご参照ください。</p> <p>整備期間中のリスクに関しましては、例えば、現病院の耐震性の観点においては、施設は老朽化しているものの耐震性を有しており、都立病院としての役割を果たす上で大きな支障はございません。</p> <p>また、整備期間中においても、他の災害拠点病院との災害時オペレーションの確立や、地元医師会、関係機関等との日常的な減災対策の推進を通じて、災害発生時の相互補完体制を構築することで、切れ目のない基幹災害拠点機能を維持してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（広尾病院整備基本構想 P44～45 参照）</p>
交通手段	15	<p>建物整備とは直接関係がないかもしれませんが、島しょ住民が多く通うことを考えると、竹芝港にさらに近い場所からバスに乗車できれば、一人で受診しようとする病人には便利かと思えます。</p>	<p>他事業に関するご意見と理解いたします。</p>
その他	16	<p>こどもの城の再整備・再開業を厚生労働省に働きかけてください。そもそもなぜ突然閉館したのか、東京都から土地取得を持ちかけたのではないかとさえ疑念を抱いています。私が子供のころからの思い出の地です。子供のための施設ができることを強く願います。</p>	<p>頂いたご意見は、基本構想に関するものではないため、恐れ入りますが都では受けかねますのでご了承下さい。</p>